

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 木曾 裕介

まずは第15回地域教育実践交流集会 in 大洲を開催して下さった事務局の皆様、そして参加して下さった皆様、半日という短い時間ではありましたが、大切なご縁と刺激をありがとうございました。また、愛媛県外にも関わらず、NPOおのみち寺子屋の社会人スタッフ、学生スタッフを現地へ読んでいただき、ありがとうございました。

今年の交流集会では、「自分たちの活動の軸をブラさないこと」、そして「地域の大人たちの姿」の重要性を改めて感じさせていただく時間となりました。コロナウイルスの蔓延により、多くの団体・イベントが中止や延期、また従来とは異なった形での開催を余儀なくされるだけではなく、事業を継続することができなくなる団体も見られる中、やはり生き残っている団体は、「今、ここ」で本当に必要とされていることを知り、柔軟に対応していくことはもちろん、活動を始めた当初の想いや趣旨、自分たちの“軸”をしっかりと持っていると感じました。それはこれから先の未来、今よりもっと急速に変化する時代においても、必ず必要になってくることだと思います。「なんのために？」を常に考えながら、行動していくことの大切さを改めて感じさせていただく時間となりました。

また、今回の交流集会には大学生や高校生が多く参加しており、その背景には、子どもたちを信じ、任せ、そして時には引っ張っている大人たちの姿があるのだろうなあ、と感じました。子どもたちが地域に愛着を持つきっかけは様々だと思いますが、大人たちと一緒に活動していく中で「一人の人間として認められる」体験を経て、「地域にとって必要とされている」ことを実感することがとても大切なのだと思います。そのためには私たち大人が、子どもたちが安心して挑戦できる環境を創ること、そしていろんなことを任せながら見守っていけるだけの器が必要なのだと感じ、今の私にはまだまだその器が足りていない！もっと私自身が成長し、多くの学びと体験をプロデュースできる人財になればと強く感じることができました。

交流集会では久しぶりにお会いできた方々も多く、対面で参加させていただいたからこそ、地域教育にかける思い、そして熱量と愛情を直接感じることができ、これからの活動への活力をいただくことができました。まずは私の地元、尾道市から交流会に集まった皆さんに負けない熱量をもって精一杯活動していき、来年は一回りも二回りも成長した姿で皆さんと再会したいと思います。

最後になりますが、交流会の開催にあたり、様々な配慮をしながら準備を進めて下さった事務局の皆様、本当にありがとうございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 窪内真帆

第15回地域教育実践交流集会を開催して下さった皆さま、参加された皆さま、本当にありがとうございました。3年ぶりの集合開催は、大変なご苦勞とお心遣いがあったの
ことと思います。たくさんの出会いと学びとエネルギーをいただき、とても楽しく充実の
1日を設けて下さったことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

NPOおのみち寺子屋として、多くの大学生スタッフと一緒に参加させていただきました。
私自身、学生時代にこの地域教育実践交流集会で多くの“カッコいい大人”と出会い、
憧れの気持ちと将来の目標をいただきました。今年尾道から参加した大学生たちも、皆様
との時間から多くの刺激をいただいたようです。そのことが、私はとても嬉しいです。

今年の会を通して、子ども時代に「自分もまちの一員だ」と感じる経験をするこの大
切さについて考えました。例えば、全体会の浅野さんと阿部さんの発表の中にあつた、火
災を知り「自分たちに出来ることは？」と考え行動したという点が、とても印象に残って
います。この発想ができること自体が、素晴らしいことだと感じました。育った地域で過
ごす中学生や高校生頃までの期間に、地域の大人が自分たちの意見を聞いてくれた経験や、
主体的に生き生きと行動する大人や“少し年上の人”に出会い関わった経験があることが、
その人の考え方や生き方に大きな影響を与えるのではないかと思います。前向きな気持
ちとして、「自分もまち(組織)の一員だ」と考え行動できる人でありたいと思いましたし、
地域や職場など様々な場所で、そのような体験を届けていきたいと思ひます。

また、おでん∞カフェも、とてもとても楽しかったです。初めは少し寒いと感じた会場
も、1時間後にはぼかぼかとあたたまって、参加者一人ひとりが、出会い、関わり合い、
しっかりダシを吸収するおでんの具そのものとなって楽しんだ時間でした。おでん∞カフ
ェの安心感や、限られた時間でも心を開き合って交流できるあの環境について、どんな仕
掛けが込められているのだろう、どのようにしてあの場が創られたのだろう、と尊敬の念
を持って考えています。一つは、運営される皆様を中心とした信頼関係とチームワークに
よるところも大きいのだと思ひます。受け入れてくださる安心感の中で、学びと活気の溢
れる濃い時間でした。貴重な交流の場を、ありがとうございました。

1日を終えて振り返ると、開会の言葉の中の「話す・聞く・学ぶ・交わる・たくわえる」
という言葉が心にじーんと沁みまひました。コロナ禍のおかげで痛感した「人と会って関わり
合うこと」の大切さや有難さは、前向きな気持ちとして、これからも決して忘れまひせん。

ぜひ、また来年も大洲の地で皆様と笑顔で再会できるよう、自分の力をしっかり使ひて、
近くにいる人を大切にひして、活動してまひります。(楽しみながら！)

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 佐藤 秀征

3年ぶりのリアル開催有り難うございました！私自身もコロナ禍で前職では生活する中での行動制限があり塞ぎがちな生活をしていましたが、「体験の場を途絶えさせてはならない」という想いで転職をし、地域での活動を再開することができました。大人にとっての3年間はあっという間ですが、発達段階における子どもたちの3年という時間は価値が違います。その事実を認識したうえで活動に邁進していきたい。大洲ではエネルギーを充填することができました。

発表されました実践者に共通することが2つあると感じていて、1つ目は地域を良くしていくために他責にならず、「自ら動く“こちらから”の姿勢」があること。2つ目が「自分以外の事柄に力を注ぐことが幸せであること」この2つが共通しているように振り返っています。やらなければならないという義務感や責任感ではなく、楽しいからやっているという姿勢です。

そして地域教育の場（コミュニティ然り、場所然り）をつくることの副産物として、会では「サードプレイス」という概念もありました。家庭・学校・職場以外に地域の中で軸足を置ける場所が多くあると、相談したり、誰かが声をかけてくれたりと孤立たりせず、関係する人が増えて精神的にも安定して過ごせるように感じました。これは、公民館とは違う色の場であり、本来は公民館がそういった側面を持ち合わせる場であることが望まれますが、現実的には確かにその自由度などの側面も考慮すると難しさもあるなど一旦決着しました。ただし、公民館をより広く、自由さを持った活用をしなければ、一部の方だけのサービスとなってしまうので、行政と地域でうまく連携を取らなければと感じました。そのためにも、様々な方との繋がりが必要となってきますので、常日頃の活動において多くの地域の方々を巻き込んでいく取り組みと姿勢を加速させていきたいと感じました。

終わりになりますが、本会にむけてご準備いただいた方々へ感謝申し上げますとともに、NPOおのみち寺子屋としましても、来年は学生一人ひとりが「自分が来年おの100の代表としてあの場に立つ！」や「独自の事業で5年後10年後に交流集会で事例発表する！」といった気概をもって成長した姿をお見せできます様、活動を盛り上げて参ります。

来年、再会した時報告し皆様への恩返しができると思います。

ブラボー！

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 佐藤 知里

3年ぶりの対面開催に参加させていただき、本当に有り難うございました！大洲に参加される皆さまの地域への誇りや愛は老若男女関係なく、強くキラキラとしており、「ドキドキ・ワクワク・ジーン」と心が動いた一日でした。特に、印象が残っているものを2点、挙げていきます。

1点目は、全体会でも話題になっていました「若者の力のすごさ 頼もしさ」についてです。参加している高校生や、事例発表をしていた大学生等に話を聞いてみると、みな地域で活動することを「地域への恩返し」「やらなければならないことではなく、やりたいこと/やって当然のこと」ととらえていました。その姿の向こう側には、彼ら彼女らを愛し大切に育てた地域の大人たちがいるのだと伝わってきました。大人たちの姿を見て、かかわりを経て、このように少しずつ「地域で育った/育てられた」という体感が積み重なるのだろうと思いました。NPOの活動でも「恩送り」を意識することが多いですが、元気あふれる若者としての気持ちを忘れず持ち続けていきたいし、このような若者を育てていきたい！と改めて思いました。

2点目は、「元気あふれる若者に対する大人の役割・できること」についてです。個人的に、今の自分は若者側・大人側、両方の役割になれる立ち位置にいると振り返りました。特に大人としては、若者が自由にのびのびと動ける環境をつくるのが大切だと思いました。そのためには若者をしっかり信頼すること、大人同士でつながりを作ってみなで支えることができたらいいのではと考えました。私自身この先、地域の活動に今ほどの活力で取り組めなくなる時がくるとは思いますが、その中でもできることを細く長く続けていきたいと思いました。そして、今の若者たちがいつか大人側にまわる時もあります。ぜひ、共にそれぞれの地域でパワフルに活躍し、若者を支えられる「大人」になりたいと思いました。

終わりに、この度の大会での再会と出会い、今後の決意についてです。3年間のうちでパワーアップされた多くの皆さまとお話しできた、「また来年もこの場で会いましょうね！」と新たにつながりがうまれたことを嬉しく思います。コロナ禍でこのような場に行くことがありませんでしたので、別の場所で同じ志で頑張る仲間との出会いの喜びを徐々に実感しました。まさに「かかわりはチカラ」です！そして、今回もとっても楽しかったおでん∞カフェ！ブラボーでした！今回皆様にいただいたエネルギーをもとに、今日の気持ちを忘れず、多くの経験をし、失敗・苦悩にめげずに前進し、味よくしみ込んだ美味しいアツアツのおでんの具となって大洲に戻ってきたいと思います！本当にこの度は学びあふれる時間を有り難うございました！改めて、魂込めて 地域に 教育に 携わっていきます！

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 秋田琴美

私は大洲交流会で、問題を発見する力の大切さと、当事者意識を持ち、自分が動いて何とかしようとするもののカッコよさを学びました。

私が参加した分散会10で発表してくださった、高校生のための第三の居場所をつくるために活動されている方の問題意識は、高校生が立ち寄る場所が無く、部活に入っていない生徒も増えており、高校生の家や学校以外の居場所が少ないことに向けられていました。この問題を見つけるためには、高校生の実態に目を向けないといけないですし、居場所が少ないことでどんな弊害が出て、何を解決したいのかということをはっきりさせないといけません。この方の事例に限らず、私が発表を聴いた方々は、自分で問題を見つけて、解決のために動いておられました。問題は、自分が問題だと認識して初めて問題になります。問題は勝手に見つけられるものではなく、何気ない出来事にも疑問を持ち、自分で見つけに行くものだとすることに気づかされました。

また、分散会10で発表してくださったもう一人の方は、若者がまた戻ってきたいと思う場所を作るためのきっかけとして、マルシェの開催や、廃校活用など地元の良さを生かしたまちづくりをされていました。地元のまちではないのにも関わらず、「外から来た人たちにしか見えないものがある」と、精力的に活動されていた姿が印象的です。「郷土愛」は生まれ育った場所に芽生えるイメージでしたが、「外から来た」という強みを生かして、地元の方と一緒にまちをよりよくしようという形の「郷土愛」もあることを学びました。地元か地元ではないかはあまり関係なくて、そのまちの問題のことをどれだけ「自分事」として捉えられるかが、愛を持ってまちと関わり続けるカギだということは新しい発見でした。「自分は外から来た人だから」とか「このまちはこういうものだから」といったことを言い訳にせず、自分が変えようと動いている人には、人を動かす力があります。純粋にカッコいいと思いました。私も将来そんな大人になりたいです。

強い想いは人や社会を変える力があるということを感じた交流会でした。問題を見つける力も、それに対しての解決策を模索する力も、そのために人やお金を集める力も、強い想いが根源にあるのかなと思います。自分の心の中で強い想いという火が燃え続けていれば、その熱さに影響を受けて、何かが、誰かが変わります。私もたくさんの熱に触れてたくさんエネルギーをいただきました。今回いただいた学びを今後にも必ず活かしていきます。このような機会とご縁をくださりありがとうございます。一回りも二回りも成長した姿になって、来年も必ず参加させていただきます。これからもよろしく願いいたします。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 浅和 樹

第15回地域教育実践交流集会に参加させていただき、ありがとうございました。県外からの参加にもかかわらず対面でみなさまとお会いできたことで、とても濃い時間を過ごすことができました。対面・オンラインのハイブリット開催で例年より大変なところも多かったと思いますが、本当にありがとうございます。

たった1日でしたが、たくさんのパワーを感じ、学びを得ることができました。未知の視点からのお話や新鮮な考えや見失っていたマインドなどにたくさんふれて心が動かされ、その場で熱量を共有しているからこそ起こる感動を感じることができました。感じたことをぱっと場の流れに合う言葉にするのが難しくあまり自分から話せなかったのが心残りなので、来年はもっともっと考えを言葉にするスキルを磨いてこようと思います。

特にこれから大事にしていこうと思ったのは『楽しく活動すること』です。おでん∞カフェでの 仲間を増やす、周りの人を巻き込む という話のなかで、「笑顔だったら人が集まってくるから楽しく！」「自分からやりたいと思ってもらうことが必要」という話が出てきたり、「使命感で重苦しくやるんじゃなくて楽しくしたらいい」という発表があったりしてはっとさせられました。使命感や責任感が必要だけれどそれを重荷として背負うのではなく、芯を持ちながらも身軽に活動を楽しみたい！という目標ができました。

また、新しく『よそ者だからこそわかる魅力』という視点を得ることができました。「自分を育ててくれたまちへの愛」が活動する方々の原動力のベースとなっていることを強く感じた分散会・全体発表・おでん∞カフェでしたが、そのあとの発表や仲間から聞いた他の分散会の話から「よそ者だからこそわかるその地域の魅力を伝えていくことができる」と学びました。もともと尾道にルーツのないわたしでも、尾道は大好きな土地だし伝えたい魅力もたくさんあるので、よそ者にしかできないやり方で地域への想いをこめて活動したらいいんだなと思うことができました。同時に、自分を育ててくれたまちへの感謝も持ち続けられたらいいなと感じました。

新しい視点とともに、共感できることにも出会いました。わたしたちと内容が似ている活動のお話が聞けたり、楽しそうに活動している同じ大学生のみなさんとお話できたりして、わたしもがんばろうと元気をいただくことができました。似ているけれど少しずつ違うところに学びがあったので、これからもこのご縁を大事にして高め合っていけたらと思います。

改めて、素敵な集会をありがとうございました。来年も楽しみにしています。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPO おのみち寺子屋

広島大学 2年 池田夕希子

まず、この交流集会を開催していただきありがとうございました。コロナウイルスの影響がまだ残る中、対面で参加させていただいてとてもいい経験になりました。大洲での交流は私にとっては新鮮でとても意味のあるものでした。お話の中で興味深かった2点を挙げさせていただきます。

1点目は地域教育とは何かということです。私はこの集會に参加するまで、“地域教育”とは何か、地域に貢献するということはどういうことなのか、あまりはつきりとは理解していなかった気がします。ですが、たくさんの方々と交流することによって自分なりに解釈できるようになったと思います。私が出会った方々は、地域の良さを子供たちに伝えたいとか地域の伝統を残したい、地域の安全を守りたいなどさまざまな形で地域にかかわってらっしゃいました。私たちが行っている活動も、子供たちの成長を支えるものです。その活動を通して、子供たちが地域で愛された記憶を残すことは未来の地域を担う人材を創出することにつながり、地域に貢献できるのではないかと思います。“郷土愛”というキーワードも登場していましたが、郷土愛は地域のつながりがないと形成されないと思います。過疎化が進むなかで、逆に人とつながりやすくなったと私は思います。都市では作ることのできない地域のつながりを創出することが地域の強みにつながればいいなと思います。老若男女問わずつながりを持ち、郷土に対する理解を深めていきたいです。これからも自分の活動に自信をもって、どのように地域に貢献できるのか、自分のためだけの活動になっていないかを見つめなおして今後も頑張りたいです。

2点目は、活動をしようという原動力です。ボランティアで活動するには相当の覚悟と根気が必要だと思います。お金も時間もたくさんかかるにもかかわらず、地域のために活動しようと思う気持ちはどこからくるのか、そしてどうして活動を続けようと思ったのかが気になっていました。みなさん活動を始めるきっかけはそこまで重大なものではなかったと思います。例えば、地域防災に興味があったからとか面白そうだと思ったからなどでした。どうして活動を続けているのかをお聞きしてもほとんどの方が、なんとなく続けているという回答でした。私を感じたのは、みなさんが当事者意識をもって活動していることでした。理由はなんであれ、当事者意識を持つことによって自分がやらなければならないという気持ちになるのかなと感じました。私も、地域の問題を自分事としてとらえて楽しく活動していければいいなと思います。

大洲には様々な活動をする方々が集まります。普通に生きていてもこんな機会はないです。ここでできたつながりに感謝し、大切にしていきたいです。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 今村美雨

先日は交流集会に参加させていただき、ありがとうございました。私は今年初めて、参加させていただいたのですが、参加者の皆様の暖かさや活動に対する思いの熱さに大変感銘を受けました。

当日はNPOおのみち寺子屋の代表として発表させていただきました。リハーサルから当日まで、ファシリテーターの小池様をはじめ、分散会の皆様とたくさん議題について議論させていただいて、今までにはない視点を得ることができました。大学では、教育学部に所属し学んでいるので、教員経験のある方のご意見を学校教育・地域教育・社会福祉などの視点からお聞きすることができ、刺激をいただきました。大学でも、ここまで近い距離で先輩方と深い議論をさせていただいたことはなく、とても楽しい時間となりました。これから、考えたいことややりたいことが見付き、有り難く感じています。今後のNPOおのみち寺子屋での活動に限らず、大学での学びや将来の仕事にも活かすことができるような貴重なお話を聞くことができたと感じています。

おでんカフェの活動では、様々な世代の方と話ができ、興味深いお話をたくさんお聞きできました。同世代の皆さんが活躍されている姿も見せていただき、私もこれから頑張ろうと決意を新たにすることができました。お会いした皆様に負けないよう、積極的に活動していこうと思います。

最後になりますが、開催への準備を下さった皆様、ありがとうございました。また、コロナ禍であるにも関わらず、尾道市から私たちを対面での参集に参加させていただき、ありがとうございました。コロナ禍以前は3時間ほどのディスカッションの時間や、宿泊・食事会などが開催されていたとお聞きしました。少しでも早く、以前の形での開催ができることを祈っております。大変貴重な機会をいただけたことに感謝しております。ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ致します。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 一年 宇佐美若菜

私は今回初めて大洲の交流会に参加させて頂きました。地域を良くしていこうと活動されている方々との交流からはたくさんの刺激を受けました。会場の雰囲気や参加されている方々の熱い気持ちを感じることができ、対面で参加することが出来て本当に良かったです。

地域教育実践交流集会では、世代の違う方々と交流できたことでの気づきが多くありました。私が特に考えを深めたいと思ったことは、それぞれの「役割」です。それぞれの持っている視点を大切にすることが、地域の魅力に気付くことにも繋がっていくのだと思いました。私は分散会で大学生以外の方とお話ししたり、全体会で大学生の発表を聞いたりしたことで、今の自分だからこそできることがあるのかもしれない、と思うようになりました。私は、おの100の活動をしている尾道市の出身ではありませんが、尾道市に強い魅力を感じています。尾道市、おの100の魅力発信をするということにおいて、自分の持っている視点に注目して考えてみようと思いました。バス内研修や実際の交流からまだまだ自分の中にあるものを発信していく難しさを感じました。今回発表者の方々を見て、吸収した学びを糧として、発信という点において活かしていこうと思います。まずは自分の言葉で伝える、ということに挑戦していきます。また、私たち大学生が伸び伸びと活動できるのは、支えてもらえる環境、受け入れてもらえる環境があるからこそだということも強く感じました。それを踏まえた上で地域の中で自分がどんな力を発揮できるのか、もっと注目してみたいと思いました。様々な世代が地域として一丸となって活動していきたいと思いました。

おでんカフェは笑顔溢れる、和気藹々とした時間でした。ホームに帰ってきた時に、自分の言葉から色んな方の意見が合わさって広がっていた様子を見る事が出来て嬉しかったです。私はこんなにも真剣に楽しく地域について考えたことはありませんでした。地域というものに密着することでこんなにも様々な意見が出てくることを知りました。人と人が繋がりを持つことで地域の可能性がさらに広がっていくことを感じました。この「繋がり」という言葉がディスカッションでもたくさん出てきました。今回の交流会もそれ以外の活動も、繋げてきてくれた人たちがいたため、自分も新たな繋がりを持つことが出来たのだと強く感じました。やりたい！という気持ちがあれば工夫次第で困難も乗り越えられるのだと気付かされました。

私は学びを得るために、良く「聴く」ということを目標にして参加しました。聴くということを通して積極的な行動や気づきに生かすことが出来ました。このような繋がりを持つたことに感謝したいです。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 浦山拓実

先日の地域教育実践交流集会ではありがとうございました。私は交流集会への参加は初めてでしたが、想像以上の学び、そして出会いをすることができました。

今回参加してみての気づき、学びは2つあります。1つ目は、自分の気持ちに素直にということです。集会にいるほとんどの方が、地域を盛り上げたい！未来のために！という思いをもって各々の活動をしていることを強く感じました。その中で、何人かの方にごくからその思いが湧いてくるのか伺ってみると、自分の過去だったり、人との繋がりだったり人それぞれの根源があることに気づきました。このことから私は、自分の気持ちに素直にという学びを得ました。私は今までの活動で周りの思いに合わせて自分の思いを作っていたせいで、強い思いを持って取り組むということが出来ていなかったと思いますし、それについて悩むことがありました。強い思いというものは誰かからもらうものではなく自分から湧いてくるという、当たり前だけど私にとっては重要なことを学びました。今のところ私の根源は、楽しいを追究することだと思うので、その気持ちを大切に活動し、それが地域を盛り上げたい！未来のために！という思いに繋がっていけばいいなと思います。

2つ目は、多角的な視点を持つことです。今回の交流会集会に参加した中で驚いたことの1つに、参加している方々の気づきの鋭さや、課題発見能力の高さがあります。分散会では、発表者の素晴らしい発表に対し質問タイムで、「こういう点は素晴らしいよね。でも、こういう点はもう少し改善できそうだよね。」という様々な視点からアプローチしている様子が見られ、自分の視点の少なさを実感しました。おでんカフェでは、意見が出きったと思っても、次のグループに行けば、次から次へと新しい意見が出てきました。途中から私もなにか意見を出したくて、なんとか食らいついていこうと頑張っていましたが、それでもそれを上回る意見が出てきました。凄いなと思うのと同時に、これだけ色々な視点からものごとを見られれば、良いところや課題などの気づきの質が高くなるなと思いました。多角的な視点を持つことは、日頃から意識しないと絶対に身についていきません。そのものにどんな要素があるのかをしっかりと捉えていくことを意識します。

上記以外にもこれからの私のためになる気づき、学びは多くありました。さらに、対面で交流することで、そこでしか感じられることが出来ない、熱意や繋がりに触れることが出来ました。そんな物凄く貴重な経験が出来たのも、この集会に関わってくださったすべての方のおかげです。本当にありがとうございました。ここから1年、次は一回りでも二回りでも大きくなった姿でお会いできるよう精進していきます。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 大熊彩華

私は、この地域教育実践交流会を通じて、地域を変えようとしている方たちの愛に心を動かされました。恥ずかしながら、私はこれまで自分が住んでいた地域に誇りを持ったことがなく、なんとなく過ごしていました。それはやっぱり周りの人をよく見ていなかったからだと思いますし、周りにいる人の温かさを見逃していたからです。私が参加した分散会では、自分が住んでいる地域を好きになるには、まず自分の周りにいる人を大事にすることが大切であるというお話を聞きました。場所をたいせつだけど、それ以上に人を好きになることをきっかけとして、郷土愛が生まれ、「この地域のために何かしたい」という想いが生まれるのだなと思いました。

そして、大洲に参画した方々は、そのような想いを持ったら、必ず行動に変えていることも印象的でした。想いや立場は違っても、何かのために誰かのためにという前向きな姿勢が非常にかっこよく、私も頑張らなければいけないなという活力をいただきました。

また、全体発表とおでん café では、「地域と教育の架け橋」という言葉を聞き、非常に印象に残りました。地域教育実践交流集会に参加する前には、私にはなかった考えを得ることができました。子どもたちが地域に必要とされている、地域で学んでいることをたくさん実感できるような教育はとても大切だと思いました。その実感を得るためにも、教科書と体験が相互に関連しながら、決して机上だけではない学びというものを提供できるような環境づくりができれば良いなと思いました。また、地域での居場所づくりという面でも、公民館だけではなく、人と人がつながり、安心していられる場所を大人が作っていく重要性も学ぶことができました。

今回の交流を通して、地域というものにもっと関心を持っていきたいと思ったと同時に、「ワクワク、ドキドキ、ジーン」を大事にしながら、相手にどうしたらその想いを届けられるか、自分がどれだけ楽しんでやれるかといったモノ以上に人をみることも自分の中で大切にしていきたいなと感じました。人と人との繋がりや温かさを感じることができたからこそその学びだと思います。こうした学びは自分の中で留めることなく、周りにも発信していけたらなと思います。

このような素敵な会に参画させていただき、ありがとうございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 4年生 大月咲与

昨年のオンライン開催に引き続き、今年は大洲の現地で参加させていただき、感謝の思いで一杯です。愛媛県大洲市へは初上陸でしたが、今年も様々な方々との出会い、そして学びを持って帰ることができたことを嬉しく思っています。

今年最も印象に残っていることは、「若者のちから」です。地域教育というと、親世代そしておじいちゃんおばあちゃん世代が主となって、子供たちが住みやすい街にしていくというイメージがありました。昨年の地域教育実践交流集会でも、地域の良さを再発見できるような取り組みとして、俳句の活動をされている方々のお話をお聞きしました。一方、今回の交流集会では親世代より年上の方々に加え、地元出身の大学生やご縁があつて新しくその土地に来た20代から30代の方々の活動のお話をたくさんお聞きしました。同年代の大学生の方々のご活躍を知り、自分にも何かできるのではないかと、どんなことができそうか想像を膨らませました。

私が幼少期育った町でも、衰退していく文化や資源はいくつかありますが、無くなった背景や復活させる必要性まで考えるほど地域について深く学ぶことが少なかったと感じます。身近にあるもの、当然のように感じているものに疑問や課題を見出すことは向き合おうとしなければ見えてこないものであると思うので、そうした敏感なアンテナを磨く必要があると思いました。そのアンテナを磨くためのヒントとして、今回の交流集会のおでんカフェで出た「人とのつながり」があるのかもしれないと考えます。一緒に課題を解決していこうと取り組む人がいること、知恵や経験をひねり出して協力してくれる人、そういう人と人とのつながりがより良いまちづくりを推進するのだと思いました。

また、「物資やサービスの豊かさ=幸福感、生きやすさ」ではないということを改めて実感したように思います。都会には都会、地方には地方の良さや社会の形があつて、どちらが良いとも言えないのかもしれませんが、まちづくりをしていくには地方の文化や社会の方が便利なのかもしれないと思いました。つながりを大切にする日本の古くからの文化によって、少しずつ想いや熱が伝わっていき、まち全体が活気で満ちてくる様子が発表からも感じ取ることができました。しかしながら、都市部ではつながりが希薄化している問題などがあり、同じやり方では上手くいかない事もあると思います。その対策のひとつとして、国と国のつながりに姉妹都市というものがありますが、自治体もそのようにしてお互いにお互いを支え、高めていけるような関係を築くことで新しいイノベーションが生まれるのではないかと感じました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 3年 奥野愛絵

地域教育実践交流集会in大洲、有難うございました！まずは、今年も第15回目として開催して下さったこと、そして対面で参加させていただけたことに、とても感謝しています。

昨年はオンラインの開催で、初めて参加させていただきました。オンラインはオンラインで良さがあって、参加されている皆様の表情をよく見ることができるので、皆様が笑顔で話しながら私たちのお話を聞いてくださるあたたかい雰囲気や皆様のお人柄にとっても感動し、この会を一気に好きになったことを凄く覚えています。それでもやはり対面で得られるものは遥かに大きいなと、今回とても実感しました！対面でその場に皆様が集まることで、この会に参加された皆様と一体感を感じられたり、皆様のこの会に対する愛や熱意であったり地域教育に対する熱意やエネルギーであったりを肌で感じられたり、また、個々でお話させていただいたり対面だからこそ盛り上がる「おでん∞カフェ」の企画を楽しませていただいたりと、本当に得られたものが大きくて、今回を通してよりこの会が好きになりました。

今回の地域教育実践交流集会を通して感じたことは、実践されている皆様の郷土愛の強さ、問題を発見する力、実行する力の凄さです。特に、大学生が多くいたことが印象的で、全体会で事例発表をされていた、岸様、浅野様、阿部様の発表を聴いた際、同世代でありながら、自ら地域に対して「より良くしたい」という想いを持ってそれを行動に移しているところに凄く刺激を貰いましたし、純粹にかっこいいなと感じました。今の私には、「もっとより良くできるのでは？」と現状の問題を発見し、それを実行する力がまだまだ足りていないなと感じたので、今回頂いた刺激を糧に、その力を今後養っていき、私自身も同世代に刺激やエネルギーを与える側になりたいと強く感じました。

今回、地域教育実践交流集会に参加し、いただいた学びや感じたことを「恩送り」として、NPOおのみち寺子屋の活動や日常生活、将来に還元していきたいと思います。そして、来年も大洲の地で多くの方とかかわり、沢山の学びを得たいと思っています。今回は、本当に有難うございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 尾畑友香

先日は地域教育実践交流集会に参加させていただき、誠にありがとうございました。最初は純粹にお話を聞きに行きたいという想いで参加したのですが、参加者の皆様の熱意に触れ、私自身も活力が漲ってくるように感じました。

私が今回の地域教育実践交流集会で特に学んだことは、「郷土愛の力」と「大人の力」です。

一つ目の「郷土愛の力」については、分散会や全体会で様々な方のお話をお聞きする中で、活動をされている一人一人が地域に対する愛情を持っており、その想いが様々な人へと広がっていつているように感じました。例えば、ひとつむぎ様の活動では、中高生時代に地域に主体的に関わり、地域に必要とされる経験をしたことで、大学生、社会人になっても地域に恩返しをしたい、という想いを感じるようになり活動されている方もいらっしゃるとお聞きしました。また、染田様の地域おこし協力隊のお話では、地元を愛するようになることが大切であり、そこから地元の人と関わって関係を築いていくとお聞きしました。そのような地元に対する愛情から「この地域をよりよくしたい、子どもたちに届けたい」という想いが生まれ、現在の活動に繋がっているのだと思います。そういった想いを持って活動されている皆様は本当に輝いてみえ、私も今後活動を行っていく中で人との関わり、想いをより大切にしていきたいと感じました。

二つ目の「大人の力」については、私自身若者の目線から感じたことです。最初は「若い人がこんな風に積極的に地域に関わっていて凄い」と全体会の発表を聞きながら感じていましたが、おでん∞カフェの中で同じ学生が「大人が凄い」という発言をしているのを聞いたとき、はっとしました。今様々な活動が行えているのも、若者の意見を積極的に取り入れ、一緒に頑張ろうとしてくださる大人の方の力があってこそです。私も交流会で多く発言をさせていただいたのですが、とても真摯に聴いて下さりました。それがとても有難いことだと感じると同時に、世代間を超えた協力を実現するには、お互いがお互いを尊重する姿勢がとても大切なのだと今回の交流集会で改めて学ばせていただきました。私も来年には社会人になりますが、相手を尊重する姿勢というものをより意識して他人と関わっていき、そのような柔軟性のある大人の姿になっていきたいと思っています。

最後になりますが、このような多くの学びを得ることが出来、様々な方と出会い、刺激を受けることが出来たのは、地域教育実践交流集会という場を用意して下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。またご縁がありましたらよろしく願いいたします。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 2年 吉川愛梨

第15回地域教育実践交流集会に参加させて頂き、ありがとうございました。普段この交流集会のように、地域で活動されている世代問わず様々な方々と交流出来る機会がなかったのも、とても新鮮でした。最初はとても緊張していましたが、参加されている皆さんの温かい雰囲気のおかげで、徐々に緊張がほぐれていきました。

今回参加させて頂いた中で、印象に残っている三つについて書きます。

一つ目は、「居場所」の必要性です。どんなことをされている団体の方たちがいるのか、交流集会の冊子を読んでいると、私は「居場所」という言葉が目にとまりました。また、私が参加した分散会8でも、「寺家田んぼ“〇むすび”」の大熊さんが、一時の「居場所」づくりをされていると話されていました。このように複数の団体が、「居場所」を作られているということは、子どもたちにとって、また大人にとっても、必要な場所であると改めて感じました。今回は、子どもにとっての「居場所」について書きます。「居場所」が、家庭にもなく、学校にもないという子どもにとって、地域に「自分は居ていい」「頼っていい」場所があると思えることは、生きていく上で、大きな心の支えになると思います。心の支えだけではなく、人と関わる機会を得ることが出来るので、コミュニティーを広げることにも繋がると思いました。今回の交流会に参加して、私は将来学校内で「居場所」の候補の1つが作れるよう頑張っていきたいという思いが強くなりました。

二つ目は、「ナナメの関係」です。私が参加しているNPOも、小中学生と大学生の関わり、いわゆる「ナナメの関係」に当てはまります。私は以前大学の授業で「ナナメの関係」について学んだことがあるのですが、「ナナメの関係」はどういう人と関わる時なのかはいち理解できていませんでした。しかし、全体会の発表を聞いて、今やっていることも当てはまるんだ！と驚きました。「ナナメの関係」は「タテ・ヨコの関係」とは違った良い影響を与えると学んでいるので、大学生ならではの良さを生かして、子どもたちと関わっていきたいと思います。

三つ目は、「郷土愛」です。参加されていた方の中には、生まれ育った地域のために活動されている人もいました。私も、広島で生まれ育ち、将来も広島で過ごしていきたいと思っています。まだなんとなくという感じではありますが、離れたたいという気持ちはありません。ずっとなんとなくという気持ちではなく、ここが好きと言えるように考えていきたいと思っています。また、進学のために子どもが町を離れるという話がありました。こういう状況は、これから多くなってしまうのではないかなと思います。一度離れてもまた戻ってきてもらえるようにその地域の良さを学ぶ、体感する機会が必要だと思いました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 一年生 絹田 稜

まずは、今回の交流体験を対面で参加させていただき誠にありがとうございました。私は、今回の交流集会に参加するにあたって目標を決めていました。それは活動者の活動する原動力となっている部分を見つけることでした。今回の分散会、全体会、また、たくさんの人とお話していく中で、それらに関係し共通して言えることを二つ見つけました。

一つ目は、強い思い・地元愛です。お話を聞いたほとんどの方の活動をしている理由が地元の課題をなんとか自分たちで解決したいからでした。そもそも地元の課題を見つけようとするのは、言い換えれば今よりもっと自分たちの町をより良いものにしたいという強い思いを持っているということです。現状に満足せず向上し続ける、その向上心は今の私にはなく、見習うべきものだと感じました。また、問題を問題として認識することで初めて問題といえるという言葉が自分の心の中に残りました。「何事も自分事だと思う」当事者意識をもって周りを観てみます。

二つ目は、行動力です。仮に、地元の課題を見つけたとして、そこから自分たちの力で何とか解決しよう！と決心し行動に移すことは簡単なことではないと思います。しかし、参加した活動者の皆さんは地元に対する強い思いが原動力となって行動につながっており、私からしたら自分の気持ちを否定せず素直に受け止めているように見え、今の自分自身の足りない部分が見えた気がしました。「できるできないではなく、するかしないか」。この言葉を自分のモットーに、「やってみたい」と感じたことに対して、自分にできるかどうかを考えず、まずは行動してみようと思います。失敗もたくさんすると思いますが、そればかりを考えるのではなく一歩踏み出し挑戦し続けてみます。

最後に、今回の交流会では、老若男女様々な方からたくさんの刺激を受けました。自分が所属している団体以外の社会教育に関する活動を行っている団体を知らなかったのも、多種多様な活動を知り、学び自分の視野が広がったと思います。また、皆さんからのあたたかい励ましの声で自分のやってきたことに自信を持てるようになりました。こんな風にお互いがお互いのことを認め合い、励まし合い、今後のモチベーションにつなげていく、これは、一種の地元の活性化だと思いました。ぜひ来年も参加して素敵な皆さんと学びを深め合いたいです。繰り返しになりますが、今回の交流会に参加させていただきありがとうございました！

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 柴田匠

大洲での地域教育実践交流会に参加して学んだことは3つあります。

1つ目は、子供に学校ではあまりできないような体験を通して学んでもらうという活動をする際に気を付けることについて学ぶことができました。自分が小学生に体験を通して学んでもらうということをしようと考えているのでそれに合った発表を聞くことができよかったです。そこで樋口さんの地産地食を目標にしたプロジェクトと上甲さんの子供たちに様々な体験をしてもらうためにいくつもの活動をしているプロジェクトの話聞いて、1つの目標を達成すると次の目標へと向かっている話を聞いて現状に満足することなくどんどん進歩していこうとすることは生きていく上で必要な力の1つなんじゃないかなと感じました。また、学生の自分にはあまり身近にはない行政と民間とでの視点の違いや予算などのあまり接する機会のないことに触れられてよかったです。

2つめは、グループでの議論を活性化させることの大切さです。おでん∞カフェの際にそれぞれのグループをまとめていた方々は、グループが変わった際のそれまでにそこで行われていた議論についての説明がわかりやすくグループワークに参加しやすかったです。ほかにも、誰かが意見を言った際に否定からはいらないということは、議論を活性化する上で大切なんだと感じました。自分は人の意見に対して違うと思ったら最初に否定するところから入ってしまうのでそれをなくすだけでもグループの人たちは意見を出しやすくなるんだと考えました。1番見習いたいと思ったことは、課題を提示することです。リーダーの方は、何かしらの課題を提示する際に抽象と具体を使い分けていて、自分がどのように返答したらいいのかがわかりやすくて話しやすかったです。これらのことは、意識するだけでも変えることができるはずなのでこれから意識していきます。

3つ目は、学んだ事かと言うと微妙ですが同世代の方々のすごさです。同じ大学生で年もそれほど変わらないはずなのに様々なことに挑戦して成果を残していてすごいなと思いました。そうした方々の見習いたいと思ったことは、やってみるという精神です。温泉のプロジェクトの発表を聞いて、自分があの立場にいても無理だと思ってやっていないんだろうなと考えました。会場の方々がたびたびおっしゃられていた「若い力」というのは保持することはできずいずれなくなってしまうものなので1番挑戦ができるこの期間に自分もなにかしらに挑戦しようと決意することができました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2年 正野大輔

先日の地域教育実践交流集会に対面という形で参加させて頂き、有難うございます。地域のため、子どもたちのために活動していくのは、年齢も性別も住んでいる場所も職業も関係なく、その熱い想いが大事なんだなと感じました。分散会、全体会と両方に参加をさせて頂いて、二つの「た世代交代」が必要であると感じました。

1つ目が、「他世代交流」です。私たち、NPOおのみち寺子屋の学生ではない、他大学の学生の方々、愛媛県内外の学生でない地域の方々、主にこの2つが”他”であるように感じました。まず学生の方々のお話を聞いていく中で、課題発見能力の高さ、行動力の高さに驚きました。地域、町をこうしたい、活動を知ってもらいたい、そういった目的、願いを実現するために何をすればいいか、どうすればいいかを考えることから実践するまで、PDCAサイクルをしっかりと回しているなという印象を受けました。地域の方々のお話では、職業柄は様々で、学生よりも幅広い視点から地域をよりよくしようという活動があるように感じました。共通して言えるのが、“人”とのつながりが重要であることです。この集会在15回と続いているように、参加することで広がったつながりは今回限りのものではなく、この先もつながり続けていくものだと思います。一つひとつのつながりに感謝することを忘れないように、恩返しではなく、恩送りをしていきたいと思っています。

2つ目が、「多世代交流」です。今回の地域教育実践交流集会で、同世代、多世代の方々グループディスカッションなどの話す・聞くの交流を通して、私は新しい観方・考え方をたくさん手に入れることができたように感じます。意見交流を行う回数が多ければ多いほど、刺激が増えるし、自分たちの事業への取り組みにも負けてられないと熱が入ると思います。実際に私も同世代の方々の事業への取り組みなどの発表を聞いて、負けてられないと感じました。私たち大学生は、子どもたちからは接しやすいお兄さん、お姉さんという立ち位置で、地域の方々からはエネルギーを貰える存在であるというお話をいただきました。大学生らしさを大切に主体性をもって行動したいと思っています。

対面という形であったことで、皆さんの熱のこもった熱いメッセージを直接聞くことができ、文字でなんかより、何倍も何十倍も心に深く刺さりました。来年というより、今日から、NPOおのみち寺子屋を私自身がよりよくしようという想いで事業活動に励みたいと思います。今回の集会で得た「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」していけるように頑張りたいと思います。来年は今年よりも成長した姿を見せたいと思います！

第15回地域教育実践交流会 in 大洲レポート

NPO おのみち寺子屋

安田女子大学 2年 武田陽奈

今回、初めて地域教育実践交流会に参加させていただきました。私も地域教育に携わる団体の一員としてたくさんの学びがありました。私が集会を通して感じたことを二つ書かせていただこうと思います。

一つ目は、子どもたちの声を素直に受け止めることって大切だけれど、案外難しいなということです。私たちが子どもたちのために！とやってやっていることももしかしたら子どもたちのしたい事とは、ずれているかもしれません。小中高生とナナメの関係にある私たちは、子どもたちの需要と大人からの供給をつなぐ役割を担うべきだと思いました。街づくりの主人公になるには、まず地域にある課題を見つけ、それを解決、もしくは改善する方法を考え、実践していかなければならないと交流会で学びました。地域教育を行っていく上で、時間もあり、自分から動くことができる大学生の自由さを最大限に生かせると思います。ないものねだりをするのではなく、今自分の身の回りにある資源を有効的に使える方法を探すことの方が現実的だと思いました。小中高生の柔軟な考えを聞いて、まっさらな心でなんでも受け止めることが大切だと感じました。その意見を尊重するのと同時に多くの人が求める社会の実現へ向けて行動していかなければならないと思いました。

二つ目は、交流の機会があることの有難さです。私も現在 NPO おのみち寺子屋の学生スタッフとして活動しておりますが、交流会を通して同世代の大学生や大人の方々の活動を知り、たくさんの刺激を受けました。また、おでん∞カフェでは最初は少し緊張していましたが、グループごとに様々な意見が出されていて、その意見を受けて、私も自分自身の考えをたくさん伝えることができました。特に印象的だったのが、大学がない地域の地域創生についてどうすればいいのだろうと疑問が上がったときに、他のグループで、今は高校生が部活動の代わりにそういった地域での活動に積極的に参加していると知りました。どんどん若いといわれる世代が下がっていつに驚くとともにそういった機会を自分のものにしていく高校生や中学生はすごいなと思いました。私も今行っている活動や自分のやりたいことにつながる活動を自分からどんどん探しに行こうと思います。

今回、地域教育実践交流会に対面で参加させていただくことができ、また多くの人と意見交流ができてこの機会を作ってくくださった皆様に感謝しております。これからこのような機会がもっと多くの人に届くよう、また、もっと多くの若者、大人がともに活躍できる地域を作っていくために私も自分から動き、行動するよう心掛けていきます。愛媛の方たちにとっては、「よそ者」である私たちを受け入れてくださってありがとうございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2年 田中宏樹

はじめに3年ぶりとなる対面での開催に参加をさせていただき、本当にありがとうございました。私自身、地域教育実践交流集会への参加は、はじめてだったのですが、参加された皆さん自分の地域に対して愛や情熱を持っていたり、地域をより良くしたいという想いで活動に熱心に取り組んでいたりされている方ばかりで、本当にたくさんのエネルギーを頂くことの出来た機会となりました。以下では、この地域教育実践交流集会を通して、特に私が得た学びや気づきを2つ挙げさせていただきます。

1つ目は、人が集う環境をつくるための取り組み方についてです。私の参加した第3分散化では、学校や家庭とは違った第三の場、「サードプレイス」についての在り方についての話題で盛り上がりました。「サードプレイス」を設置するにあたって重要なことは、まずは誰でも気軽に訪れることが出来るような環境を整えるということです。例えば、小学生であればおもちゃ、中高生であればWi-Fiなどを用意し、彼らにとってのかたり場、たまり場、あそび場とすることで、彼らが「サードプレイス」に“来る”ことが当たり前、習慣となるような環境をつくるのが、人が集う環境をつくるうえで、とても大切になるということを学びました。この取り組み方は、新しい人が参加しやすい組織や集団を作るうえでも、活かせることだと感じました。

2つ目は、課題を発見、認識すること、そしてその課題へのアプローチの仕方を工夫することが活動を行ううえで、とても重要になるということです。全体発表で聴いた2つの団体の発表では、どちらも地域に存在する問題点を認識し、その問題を解決することを目指した取り組み方をされていました。“目指すべきところ”が明確にあることで、何をすべきか、どのようにすべきか、といった取り組みに対する意識をより高められると感じました。また、課題へのアプローチに関しては、自分たちの力だけでは解決できないものもあるということ、そういった場合に視野を広くして行政や小学校などに頼れる環境づくりをしておく必要があるということを学びました。このアプローチに関しては、行う規模によっては難しいところもあると思いますが、地域に根付いた活動、地域の人に愛されるような活動団体であることで、実現させられるものではないかと考えました。

終わりになりますが、この度の地域教育実践交流集会に向けて準備して下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。この集会を通して、今まで自分にはなかった学びや気づきをたくさん得ることが出来ました。ここで得たものを何か他の場面でも活かせるように、意識して行動していきたいと思います。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 田中優作

今回初めて参加して、地域のために活動されている様々な方とお話しする貴重な経験をさせていただきありがとうございました。地域での課題を解決しようと取り組んでいる方や、活動を支えている方の話を聞いて、地域を創っていく活動・人々の存在を直に感じられた良い体験となりました。

私が発表者の方々の話を聞いて大切だと感じたことが、地域・社会から問題を見だし、課題を自ら設定し、解決策を構想し、実践して改善をしていくという姿勢です。地域の中から問題を見つけること自体が、地域の一員であるという意識を持っている人だからこそ出てくるものだと感じましたし、そのような意識を子どもたちが持てるような教育が必要であると感じました。私自身が大阪出身でありながら広島尾道という地域で活動をしている以上、地域のことをもっと知っていく必要があると感じました。

また、おでん∞カフェでは地域から子どもたちが離れていってしまうことに関して話し合う機会がありました。地域そのものを魅力的なものにするであったり地域に会いたいと思えるような人がいるであったり意見がありましたが、今回の活動を通して自分の住んでいる地域が好きな子どもたちを育てていくというのが大切だと感じました。私は小学校の教員を目指しているのですが、地域での取り組みがあることを子どもたちに知ってもらう働きかけをより工夫して行いたいと思います。

サードプレイスの存在が必要とされている話を聞き、家族や学校の先生以外に話ができる人・場所が必要なのだと感じました。私自身が小学校、中学校、高校とそういった環境に触れずにいたので、これから学んでいく必要を感じました。そういったサードプレイスの働きを理解するとともに、学校や従来からある公民館での取り組みなどの数多くの活動も理解して、よりよい地域教育の環境づくりに貢献していければと思います。地域の組織が協力し、地域創生に取り組みながら、地域を愛している人を増やしていけるような行いを学校側はどうすべきかこれから考えていこうと思います。

最後に、改めて今回の貴重な体験に感謝しております。聞く側にまわってばかりで自分の考え、思いをうまく表現しきれなかったこともあり自分の未熟さを感じました。NPOおのみち寺子屋での学び、大学での学びを通し、もっと自分の考えを表現できるよう成長し、次回も参加させていただきたく思います。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 辻俊喜

まずはこのような場を用意していただいたこと、対面で参加させてもらえたことがとてもありがたいな～と思いました。ありがとうございます！去年オンラインで参加、今年対面で大洲交流集会に参加させてもらったのでそれをしみじみ感じました。

自分がいた第3分散会では、中高生が主体となり地域の課題解決に取り組むあおばコミュニティテラスさんと、誰もが利用できるコミュニティスペースづくりをしているあすもわさんの話を聞きました。どちらにも共通したポイントとして「居場所づくり」があったのかなと思います。学校でも家でもない三つ目の居場所。「自分を認めてくれる・大事にしてくれている環境で、自分が自分らしく過ごせる」場所を作っておられるように感じました。似たようなもので大学にはサークルがありますが、小中学校だと部活ぐらいしかなくて、部活だと順位や結果がついてきます。無条件で「僕はここにいていいんだ」そんな場所を提供することが現代社会において、子どもの自己肯定感を高めるとともに地域の魅力を感じてもらって戻ってきたいと思ってくれるような地域愛を育むのだなと思いました。これは地域に限らず他のコミュニティでも活かせることだよなと思いました。

自分は参加するにあたって「発表の中から自分の今後に活かせることを見つける。」という目標を立て参加しました。そしてまずは「自分なんてとならずに何かできることがある」という気持ちで自発的に行動していこうと思いました。若いから大人に比べて出来ることが少ないなんてことはないし、自分が所属しているおのみち寺子屋には挑戦する機会と失敗してもいい環境、助けてくれる仲間や社会人さんがいます。その貴重な場を生かして子どもたちのために動いていきたいと思いました。また課題を見つけそれと向き合うこと、強みを生かすこと、ターゲットをキチンと想定して動くこと、一人一人の力・個性・意見を尊重し任せてみることなど多くの学びがありました。今度おのみち寺子屋で小中学生への学習支援の機会があるので、居場所づくりの話も含めて今回の学びを生かしていきたいと思います。

発表を聞いていて、発表者の方は自信が満ち溢れていてキラキラしているように見えました。「少しの勇気があればみんな輝ける可能性を持っている。」そんなことを感じる事が出来ました！改めてこの機会をくださったこと、発表者の方や司会者の方、一緒に学んでくれた皆さんに感謝を伝えたいと思います（ご飯もおいしかったです笑）。

ありがとうございました！

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 2年 中田 舞

対面開催をしてくださりありがとうございました。対面で開催してくださったことで、得られることも大きかったと感じております。

初めて参加させていただきましたが、参加された皆さんが、キラキラ輝いており、私自身たくさん勇気をいただきました。参加させていただいて、感じたこと・学んだことを挙げようと思います。

1つ目は、全国で地域のため、子どもたちのために活動されている方々のお話を聞くことができ、たくさんの刺激をいただくことができました。今まで考えることができなかつたことにも目を向けることができるようになることができました。

2つ目として、若者の大切さを感じることができました。全体発表の場で、同じ大学生の活動についてお話を聞くことができました。その中で、若者が若者らしい新鮮な意見を発することが必要なのだと感じました。また、おでんカフェで様々な方とお話をして、どのグループにも若者の大切さという話題がありました。私たち若者が思っている以上に、期待されていると思うので、これからも地域のため、子どもたちのために誇りをもって活動していこうと感じることができました。

そのためには、大人の存在が必要不可欠であると感じました。私たち若者がやりたいと思ったことをすぐに行動に動かせる場を作ってくださいるのは大人です。だからこそ、信頼して助けたいと思ってもらっていただけるように活動していこうと感じました。

3つ目として、視野を広げることの大切さも学びました。コロナ禍になり活動が制限されました。その中で、今までのことができないと中止と決めるのではなく、制限されている中でも、できること・やれることがあると視野を広げることが大切だと感じました。できること・やれることを探すことによって、地域の活性化や子どもたちのためになるのだと感じました。そのために、今活動していることに誇りを持ち、活動し続けていこうと感じることができました。

今回初めて地域教育実践交流集会に参加させていただいて、いろんな方とお話をして、共有する場の大切さに気付くことができました。また、参加された皆様から、あたたかい言葉やエネルギーをいただけて、これからの活動への勇気になっております。このいただいたエネルギーを次へつなげることができるように「恩送り」をしたいと思います。これからも、様々なことに挑戦し、様々なことを経験して、よりよい活動ができるようにしていきたいと考えております。この度は、実りある学びの時間に参加させていただいて、本当に有難うございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 2年 中津蒼吾

僕は今年初めて地域教育実践交流集会に参加させていただきました。たくさんのことを学び、感じましたが、特に、参加してよかったなという気持ちが大きいです。僕は小中高と地域の活動にたくさん参加してきましたがそのときの地域の方々が恋しくなるくらいみなさんとの交流は温かく、どこか懐かしい、心にじ〜んとくるものがありました。また、参加したことで出逢えたご縁に感謝だと思います。おでん∞Caféで一つのテーマに対してチームの人とアツイ議論することで、新しい視点を知ることが出来たり、みなさんものすごく郷土愛やエネルギーに満ち溢れていて、ものすごくパワーをいただくことが出来たりと、参加して得たものが本当に多く、またこれからにも役に立つものばかりですごく有意義な時間でした。ここからは、心に残っていることについて二つ書かせていただきます。

一つ目は、本当に相手が求めていることは何か？どうすれば最も相手のためになるか？という視点で行動することの大切さです。分散会で発表していただいた団体はどちらも相手ありきの活動で、僕も小・中学生という相手ありきのボランティア活動や企画をしているので、自分の活動に活かせるいいところをたくさん聞き、学ぶことが出来ました。なかでも「その土地、人が大切にしていることに寄り添い、新しいものを一緒に創っていく」と「すぐに援けを出すのではなく我慢することで、相手の主体性や成長につなげる」はこれからの自分の活動に活かしていきたいなと特に感じました。今冬、僕は小中学生を対象とした寺子屋の推進として企画・準備をしています。そこで、僕ら学生のエゴにならず、常に相手の立場に立って、本当に子どもたちの成長のためになる寺子屋にできるよう頑張っていきます。

二つ目は、「若い力」って大切ということです。僕はこの地域教育実践交流集会に参加できることも、いろいろな体験をすることが出来ているのもすべて、「大人」の皆さんの尽力あってこそで、僕らよりすごく大切な存在だと思っていましたが、おでん∞Caféで話したみなさんが口をそろえて参加してくれるような学生や若い力は素晴らしく貴重だとおっしゃっていて、そうなのかと思いつつ、では今の僕らにできることは何？すべきことは何？ということをしごく考えさせていただけの機会になったなと思います。僕はこれからこの「若い力」をどんどん増やしていくことを頑張っていきたいなという目標が出来ました。

第16回地域教育実践交流集会にはたくさんの新しい「若い力」を連れてまた大洲に帰ってきたいと思います。今回はこのような貴重な体験の機会をつくってくださった皆様、本当に感謝してもしきれません。だから、この恩をしっかりと次の人につなげ、恩送りとして皆様に感謝と恩を伝えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 西川 峻

先日の地域教育実践交流集会では有難うございました。私は3度目の同集会への参加でしたが、今回が初めての現地参加でした。過去オンラインでの参加でも大きな学びと気づき、そして感動を頂いてきましたが、今回はその何倍もの“お土産”を頂き「ドキドキ・ワクワク・ジーン」と大きく心動いた1日となりました。

今回参加して特に心に残っていることが2つあります。1つ目は「大人」としての生き方です。全体発表でも大学生が発表をされており、同会にも多くの大学生、高校生が参加していたことで「若者」という言葉が多く飛び交ったように思います。その反面おでん〇カフェなどでは「若者」が活躍するなかで「大人」としてどうあるべきか、という議論も交わされていました。私自身は「若者」側にいると自認しておりますが、「大人」の皆様の存在や創ってくださる環境のおかげでのびのびと活動出来ていると実感しています。一歩ずつ「大人」の側へと歩みを進めるいま、自分の将来のことを考えることも増えてきましたが、皆様とのお話を通して、目指すべき姿はここにあるなと感じました。多くの「大人」の皆様のおかげでたくさんの経験をさせて頂いているご恩を忘れず、私が「大人」になったとき次世代の「若者」に恩送りができるよう、精一杯活動を続けてまいりたいと考えています。

2つ目は「課題を発見する力」の重要性です。分散会での発表や全体発表を聴くなかで、皆様の課題を発見する力に驚かされました。「地域をより良くしたい!」「子どもたちのために!」という想いがあるからこそだと思いますが、課題を発見し、即行動されている姿に感嘆するとともに、貴重な学びをいただくことができました。さらに、そこからやりがいを見つけ、楽しんで行動されている姿も印象的で、その行動が社会貢献に繋がっているのですから、こんなに素晴らしいサイクルが他にあるのか!と一人感動していた次第です。NPOおのみち寺子屋で活動している学生スタッフとしても、社会で生きる一個人としても、皆様の姿は今後の私にとっても素晴らしいモデルになるだろうと確信しておりますし、皆様とのつながりをカタチに変えていく所存です。

毎年、参加される皆様のエネルギーとあたたかさに触れ、心が満たされると共に、明日への活力を頂いています。今回は対面での関わりでしたので頂いた活力もより大きなものとなりました。早くも来年の参加が楽しみとなっておりますし、来年はいただくばかりではなく、私も皆様にたくさんのエネルギーをお渡ししていきたいと考えております。最後になりますが、準備から運営まで携わってくださった皆様有難うございました!来年もまたパワーアップした姿でお会いできるよう精一杯活動に取り組んで参ります!

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 松田涼花

今回集会に参加して感じたことを1つの言葉で表すと、「ジ〜ン」です。私は広島県の尾道で活動していますが、所属する団体以外で地域教育に尽力されている方とお会いできる機会はあまりありませんでした。今回会場に来られている方全員が、誰かのために一生懸命考え、行動されていて大変感動しました。

ジ〜ンを具体的に表そうとしたときに、初めに思い浮かぶのは感謝です。私が参加した分散会で、「現在は子供たちの郷土への愛着が失われかけふるさとが消えている。人が生きる時に支えになる根幹はふるさとであり、こんな状況では今の子供たちが生きるための根っこがあやふやになってしまう。」という内容の発言がありました。これをおっしゃっていたのは私と年齢が65歳以上離れている方でした。また、この分散会で同じグループだった方は皆さん年上でした。話題にしていたのは私より若い子供たちです。こんなに年が離れているのにも関わらず、私や、話題にしている子供たちよりも自分事として真剣に考えられていることが表情、姿勢、言葉等、行動の端々から伝わってきました。誰かのために本気で行動する姿勢に感動するとともに、自分もこのような熱意のある方々のお陰で地域と関わりながら成長することができたのだと、しみじみとありがたく感じました。また、自分が変えていかなければとも感じました。

次にジ〜ンを具体的に表すならば、刺激です。今回の全体会では、私と同じ大学生が地域のため、子供たちのために行動されていました。発表された岸さん、浅野さん、阿部さんは3人とも現状に決して満足せず、課題や解決方法を考え、大学生という立場だからこそできることを見つけて行動されていました。私の行動を重ね合わせた時に、自分の問題意識と行動力の欠如を感じました。ここで感じた熱を私も受け取って、今回発表してくれた学生に負けないよう誰かのために本気になりたいと思いました。

最後に、感動です。これまでもこの言葉を使ったと思いますが、それぞれが活動にかける想いや行動力、聞く人が発表を受けとる姿勢等、一つ一つのことに対する基準の高さに驚き、こころ動かされました。人の心を大きく動かせるのはやはり人なのかなと思いました。今回この集会に参加したことで、頑張るモチベーションができました。今回出た「恩送り」といいますか、今回私がいただいた感謝、刺激、感動等のジ〜ンとした体験を次は私が届けられるように熱い想いを持って精一杯過ごしていきたいと思います。

大洲での交流集会に参加できたこと、沢山の素敵な方々に出会えたことを感謝しています。来年もぜひ、また同じ会場で沢山のことを学びたいです。また、もっと若い世代を会場に呼び込みたいです。ありがとうございました！

第 15 回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPO おのみち寺子屋

安田女子大学 2年 眞鍋佑香

先日の交流集会に参加させて頂き、有難うございました！私は今年から NPO おのみち寺子屋で活動していて、活動を始めた時に自分の世界や価値観の広がりを実感しましたが、交流集会でもより大きく世界が広がるのを感じました。その理由は 2 つあります。

1 つ目は、分散会でフードハブプロジェクトの地域教育のお話を聞いたことです。「食」を通じて地域への郷土愛や体験からの学びを育てるというお話を聞いて、私が今まで点として持っていた、これまで受けてきた教育や体験学習の思い出が線で繋がったような気がしました。国語の教科書で習った「りっちゃんのサラダ」が給食で出てきた時の感動とか、みんなで採ったさつまいもを一緒に食べた思い出とかがよみがえってきて、教科書ではなく体験学習でしか得られなかった学びがいくつもあつたと気付きました。家庭だけでは、体験学習には限度があります。体験学習にこそ、地域教育の必要性と計り知れない価値があると感じました。私も地域教育なら子どもたちにもっともっと渡せる体験があるのではないか、と思い、このことに気付いたからこそ、これから出来ることの可能性が広がったと思います。

2 つ目は、おでんカフェで「なぜ地域教育の活動をしているのか」「その原動力は何なのか」の答えを見つけたからです。今までは漠然と「やりたいと思ったから」と上手く言葉にすることが出来ませんでした。おでんカフェで「可能性を信じているから」という意見を聞いて、すっと腑に落ちた感じがしました。地域がもっと盛り上がって明るくなる未来への可能性を信じているからで、子どもたちの無限の可能性を信じているからで、私が所属している NPO おのみち寺子屋のチームが出来ることへの可能性を信じているからで、私自身の力が誰かに貢献できる可能性を信じているからです。このことがあの場で腑に落ちたのは、地域交流会の温かく、前向きで希望を持った人たちの空間の中だったからだと思います。学生でも大人の皆さんと対等な立場として尊重して下さったから、私の拙い力でも地域に貢献できているのではないか、もっと出来ると信じていいのだ、と思うことが出来ました。可能性を信じた先には、行動があると思います。「出来ることを探していく」の言葉が学生たちから多く出ていましたが、私も「自分の出来ること」を探して行動して、地域にいい影響を与えられる人になりたいと思います。

大洲で得たものがとてもたくさんあり、参加させて頂けて本当によかったです！！参加させて頂いて、本当に有難うございました！

第15回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 八木廉士郎

去年と違い、対面で参加できたことが、すごく嬉しかったです。愛媛県外の多くの団体がオンラインでの参加の中、現地で参加させていただき、本当に感謝しています。遠く離れた人と繋がることができたり、自宅から気軽に参加できたりとオンラインにはオンラインなりのメリットもありますが、対面だと人の温かさを直に感じとることができたり、コミュニケーションを積極的にとることができました。コロナの感染が拡大する中で、こうしてたくさんの人と会えて、交流できたことは本当にありがたいことだと思います。

分散会での事例発表では、2つの団体のお話を聞きましたが、どちらの団体も新しいことに挑戦していて、自分自身勇気をもらったような気がします。未開拓の領域に自ら足を踏み込み、開拓していくことは、本当に勇気がいることだと思います。それでも踏み込んだのは、地域を変えたいという想いであったり、一緒に頑張ってくれる仲間がいたりすることで、カタチにすることができたということでした。1人だけだと難しいようなことであっても、人が集まって取り組むことで、カタチにできるのではないかと思うようになりました。私が所属している団体も人と人の関わりを大事にしています。学生、社会人の方々、地域の方々など多くの方のおかげで活動ができています。仲間と切磋琢磨しながら前に進んでいきたいと分散会を通して思いました。また、地域にもっと貢献したいとも分散会を通して思うようになりました。私は今、地元を離れて広島で1人暮らしをしています。毎日の生活を振り返ってみると、大学と家との往復を繰り返しているなあと改めて思います。地元を離れて、ご縁があって広島にやって来たわけですから、何かできることはないか模索したいなあと感じました。

全体発表やおでん∞カフェを通じて、若さというのはすごく原動力にもなると改めて感じました。高校生や大学生だからこそ思いつく発想であったり、若者の視点であったりがすごく重宝されていると意見交換を通して感じました。若いうちから地域の課題を発見したり、積極的に意見を発信することで、年を重ねた時に観えてくるものが違うのかと思います。また、自由に活動できているのは、私たちを見守ってくれている大人の方々のおかげだと認識するようになりました。周りの環境にも感謝しながら、これから活動していきたいと思います。

半日という時間があっという間でした。このように濃い時間を過ごせたのも、コロナ渦の中、主催者の方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。